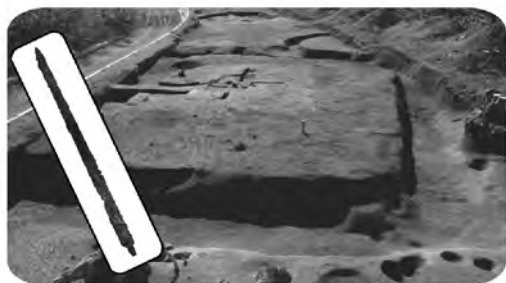


2007年度上半期

遺跡調査発表会要旨



頭無 A 遺跡 方形周溝墓と出土した鉄剣



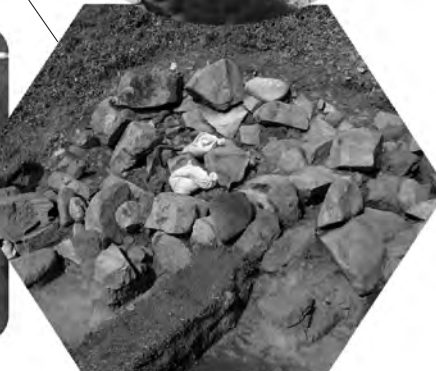
県指定史跡
連方屋敷跡
上空から見たところ→
(南西より)



国指定史跡
武田氏館跡 上空から見たところ

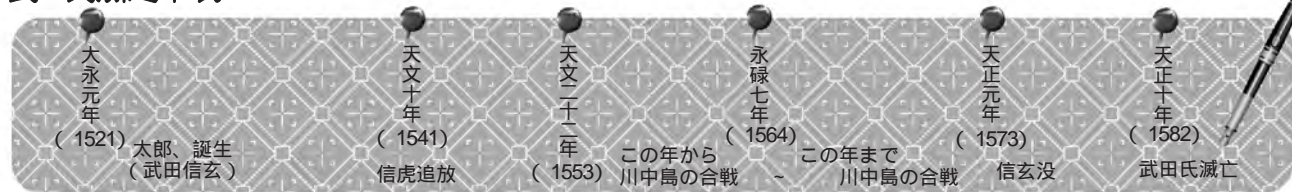


朝気遺跡 馬の骨



県指定史跡
勝山城跡 帯曲輪の石積み

武田氏関連年表 ~ 武田氏関連遺跡発表のご参考に...



日時 平成 19 年 10 月 27 日 (土)
会場 風土記の丘研修センター 講堂

主催 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県考古学協会

発表遺跡

1	頭無 A 遺跡 (北杜市)	北杜市教育委員会	村松 佳幸
2	朝気遺跡 (甲府市)	甲府市教育委員会	伊藤 正彦
3	国指定史跡 武田氏館跡 (甲府市)	甲府市教育委員会	佐々木 満
4	県指定史跡 連方屋敷 (山梨市)	山梨市教育委員会	三澤 達也
5	県指定史跡 勝山城跡・中津森館跡 (都留市)	都留市教育委員会	森屋 雅幸

がしらなしえー いせき 頭無A遺跡

北杜市教育委員会 村松 佳幸

1. 所在地 北杜市長坂町塚川 1500- 1 他
2. 調査主体 北杜市教育委員会
3. 調査期間 平成 18年 10月 16日
～平成 19年 3月 8日
4. 調査面積 2,600㎡
5. 調査原因 ふれあい支援農道整備のため
6. 調査担当者 村松佳幸
7. 調査の概要

遺跡のある場所

頭無A遺跡は、八ヶ岳南麓を流れる鳩川左岸の舌状台地上にあります。台地の平坦面と、そこから南に緩やかに傾斜する場所に広がっています。現在台地の中央には南北に縦断する道があり、そこには道標や石仏などの石造物が所々置かれており、古くから使われていました。

その道を拡幅することになり、それに先立ち発掘調査を実施しました。調査区は3ヶ所（北からA～C区）で、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構・遺物が発見されました。

なお、頭無A遺跡から北に約1.5km離れたところに長坂インターチェンジがあり、その周辺には柳坪A・B遺跡、石原田北遺跡、小和田遺跡などの縄文時代から中世にかけての大規模な遺跡があります。

発見された遺構と遺物

発見された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡5軒、平安時代の竪穴住居跡6軒、弥生時代末の方形周溝墓8基、竪穴状遺構1基、溝状遺構7条、組石状遺構1基、土坑22基、ピット160基です。遺物は、旧石器時代の石器、縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石器・鉄製品、平安時代の土器等が出土しました。

遺構・遺物は調査区北側のA・B区では少なく、南側のC区に集中していました。それはA・B区が緩斜面、C区が平坦面であるからと考えられます。なお、B区の中央から旧石器時代のナイフ形石器や石刃・剥片等の石器が10数点出土しました。出土したレベルは他の時代の遺物とあまり差がありませんでしたが、旧石器時代の遺跡が少ない山梨県において、比較的まとまって出土した事例となりました。

八ヶ岳南麓2例目の方形周溝墓群

今回の調査で特筆すべき点は、弥生時代末の方形周溝墓群が発見されたことです。これまでに八ヶ岳南麓では北村遺跡（北杜市長坂町）でしか発見されておらず、それに次ぐ調査例となりました。北村遺跡の方形周溝墓群は古墳時代前期のものなので、それよりも古い時期に位置付けられ、八ヶ岳南麓では最古の方形周溝墓群といえます。

それらは大きさにより2つに分けられます。方台部（溝より内側の部分）が10～13mの大型のものが3基、方台部が5～6mの小型のものが5基あります。溝の共有は2・3号周溝墓以外になく、それぞれが独立して造られていました。なお、6・8号周溝墓は、全体を調査していないので断定できませんが、円形周溝墓になる可能性があります。

副葬されていた鉄剣と鉄釧

5号周溝墓の方台部中央には埋葬主体部（長さ約2.7m・幅約1.2m・深さ約10cm）が残っていました。そこからは副葬品と考えられる鉄剣1振と鉄釧（鉄製の腕輪）1点が出土しました。方形周溝墓に埋葬主体部が残っていることも珍しいことですが、なおかつ、副葬品が出土したことは非常に稀で、貴重な調査事例です。

鉄剣は、埋葬主体部の中央やや南寄りにあり、そこは遺体が北枕・仰向けに埋葬されたら左腰付近にあたる場所になります。長さ約65cm・幅4cmで、表面に鞘の残骸と思われる木質部が付着していました。方形周溝墓の埋葬主体部から出土した鉄剣は、宮ノ上遺跡（甲府市）に次ぐ2例目の発見です。

鉄釧は埋葬主体部の中央から出土し、幅の細い方が北側を向いていました。北枕・仰向けで右腕を胸の上に曲げ、手首に装着されていたと想定すると、このような出土状況になると考えられます。長さ約10cm 最大幅約7cmで、本来は断面形状が円形ですが、土圧により少し押しつぶされていました。細く扁平な鉄の棒を螺旋状に巻いて作られています。螺旋型の鉄釧は県内初の出土例です。



写真1 5号周溝墓

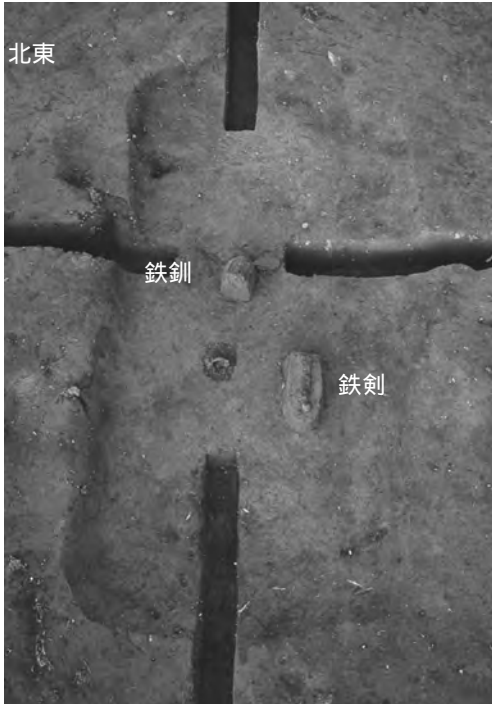


写真2 5号周溝墓の埋葬主体部

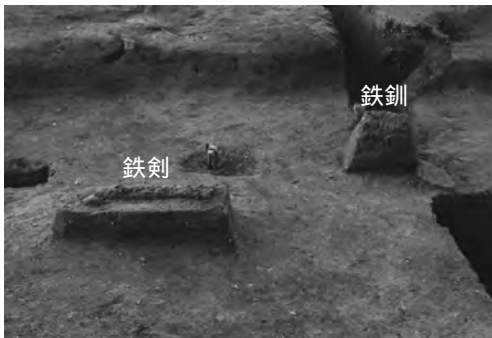


写真3 鉄劔と鉄釧



写真4 鉄釧



写真5 鉄劔

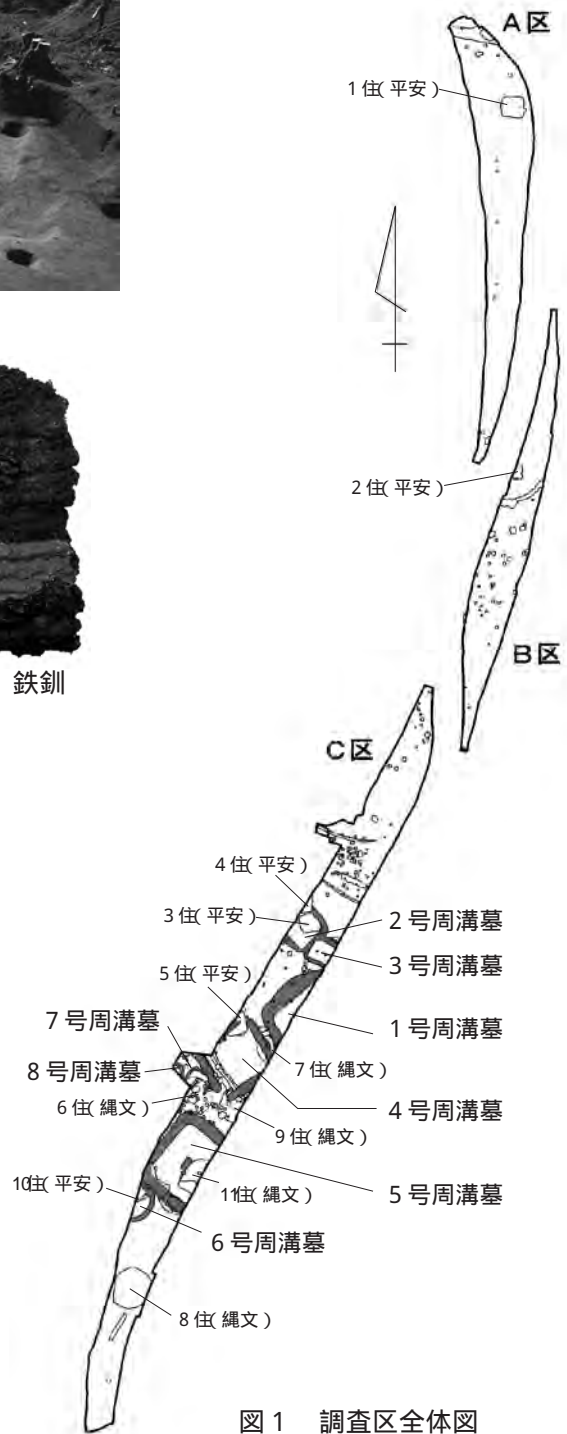


図1 調査区全体図



写真6 真上から見た調査区南側

あさけいせき 朝気遺跡

甲府市教育委員会 伊藤 正彦

1. 所在地 甲府市朝気一丁目 210
2. 調査主体 甲府市教育委員会
3. 調査期間 平成 19年 4月 24日
～平成 19年 8月 8日
4. 調査面積 1,360㎡
5. 調査原因 小学校屋内運動場建設のため
6. 調査担当者 伊藤正彦
7. 調査の概要

本遺跡は、甲府盆地北側、濁川と荒川に挟まれた標高 258mの微高地上に位置し、すでに一帯は店舗・住宅が立ち並び市街地化しています。当遺跡は、市立東小学校を中心に東西 700m、南北 500mの範囲に広がり、規模も大きく、縄文時代から平安時代へ連続とつづく拠点的な集落遺跡として知られ、古代「青沼郷」の中心地と想定されています。

古く「東小学校校庭遺跡」と言われ、昭和 5年、調査が実施され、古墳時代から平安時代の土器群の他、動物の歯・クルミ・木製品が出土し、カマド施設・溝・旧河川等が確認されました。この調査を期に、遺跡範囲がさらに広がると予測されたため「朝気遺跡」と改称されています。以後、今日まで開発工事に伴う試掘・立会調査は 50件を数え、多くの遺構・遺物を確認しています。

当遺跡で人々の生活の痕跡が確実に確認されるのは弥生時代末からで、竪穴建物、土器棺墓、水田跡等が確認されています。古墳時代の遺構は、竪穴建物、方形周溝墓、溝、水路護岸の杭列、シガラミ状遺構等があり、奈良・平安時代に属す遺構は、竪穴建物、土壇墓、水田跡等が確認されています。出土遺物は滑石製勾玉、ガラス玉、下駄・櫛・網代・機織り機などの木製品、コメ・クルミ・ヤマモモ・トチ・ヒョウタンなど植物種子、動物骨、甲虫類の羽など多様なものが見られます。

今回の調査からは、古墳時代から江戸時代までの遺構・遺物が検出されました。竪穴建物 34棟(古墳時代前期 2棟、同後期 7棟、平安時代 15棟、他に時期がまだ確定できませんが古墳時代後期から平安時代 10棟)・溝 12条(平安時代? 1条、中世～近世 9条、時期不明 1条)・井戸 3基(中世)・土坑 19基(大部分が古墳時代後期から平安時代)・ピット 30基(古墳時

代後期から平安時代)・柵列 1条(平安時代)・水田跡(平安時代)・土器集中箇所(平安時代)など多くの遺構が確認されました。それら遺構とともに多彩な遺物が出土しています。プラスチック収納箱に 65箱に及び、多くは碗・坏・皿・甕・壺・播鉢などの陶磁器・土器類などですが、過去の調査からも多く検出された木製品(漆椀・桶類の蓋(底)・ひしゃく・下駄・箸?・位牌・杭など)・モモの種子、動物骨、甲虫類の羽などがあります。

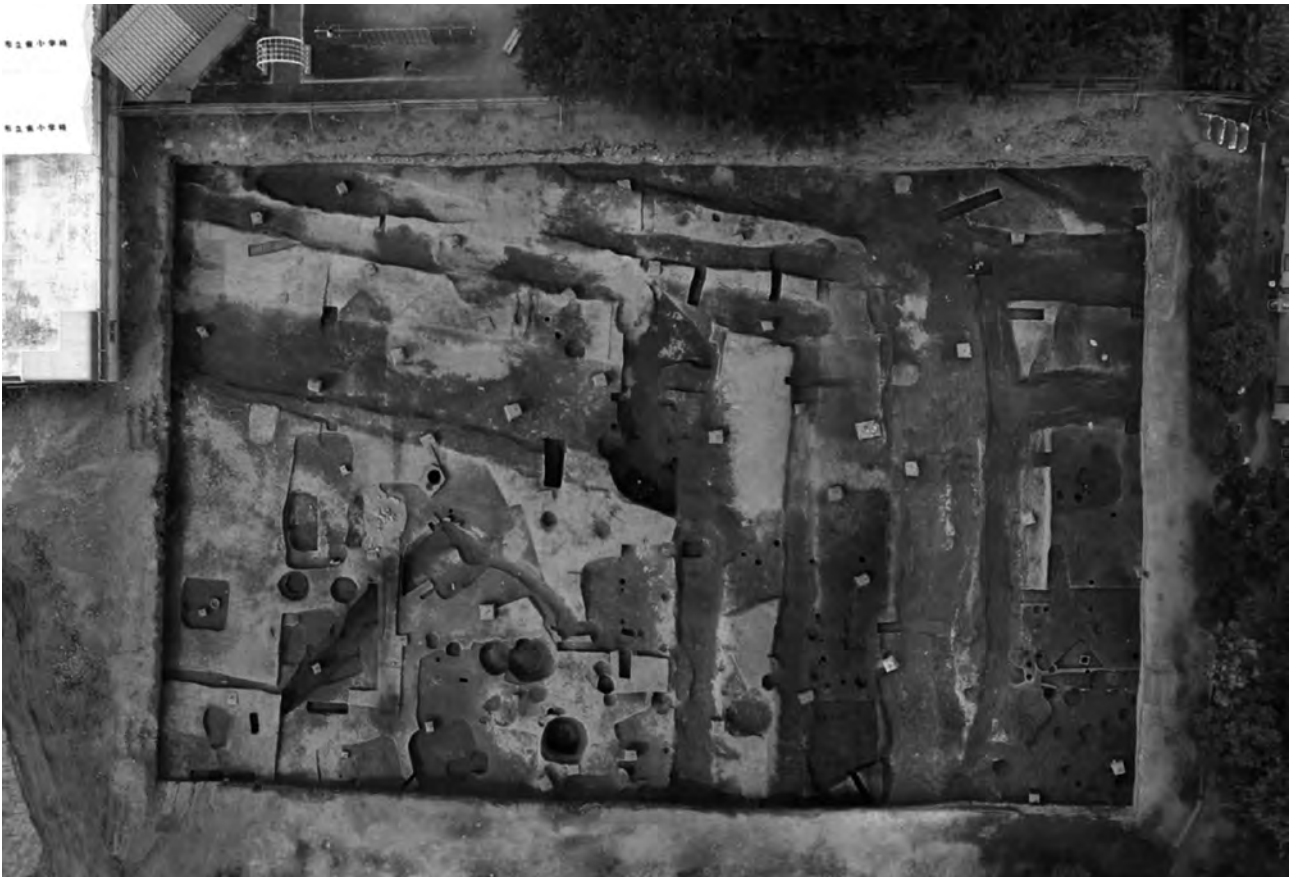
特に、埋葬された当時そのままに頭部を南に向け、右側を下にした馬の全身骨格が出土しました。体長約 1.7m、体高約 1.1mの成獣と推定されます。他に頭骨のみ出土が 1例、歯のみ出土が 4例ありました。全身骨格と頭骨は平安時代の土坑から、歯の出土は江戸時代の溝跡から検出されました。県内遺跡から多くの馬骨が出土していますが、大部分は部位のみ残存する状況でした。これまで県内遺跡から馬の全身骨格は百々遺跡(南アルプス市)から 4体、武田氏館跡(甲府市)より 1体が出土し、本遺跡で 6事例目となります。

こうした平安期の馬骨出土の事例は雨乞いにとまなう殺馬儀礼など祭祀行為に関するものと推定されていますが、一方で当時の習俗や法規定から、死馬の皮・脳髄は皮革生産に再利用されています。各地の発掘事例からも解体痕のある骨や脳髄を摘出するため故意に割られたような頭骨は、死馬再利用の結果と理解されており、本遺跡の事例も詳細に検討する必要があります。

今後、県内でも事例の集積と分析により皮革技術や動物利用の一端が明らかとなるでしょう。



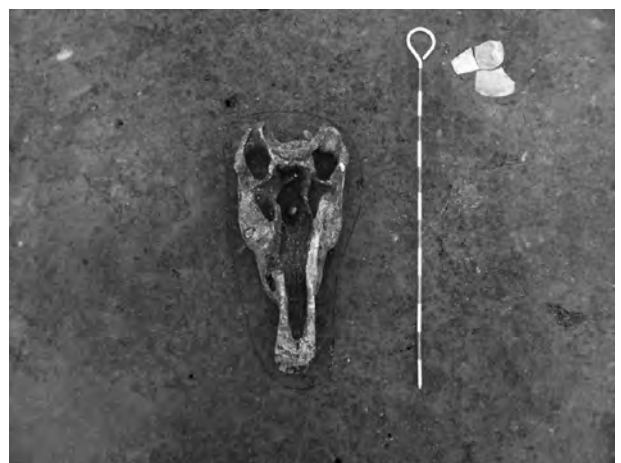
甲府東小学校児童の発掘体験の様子



朝氣遺跡航空写真



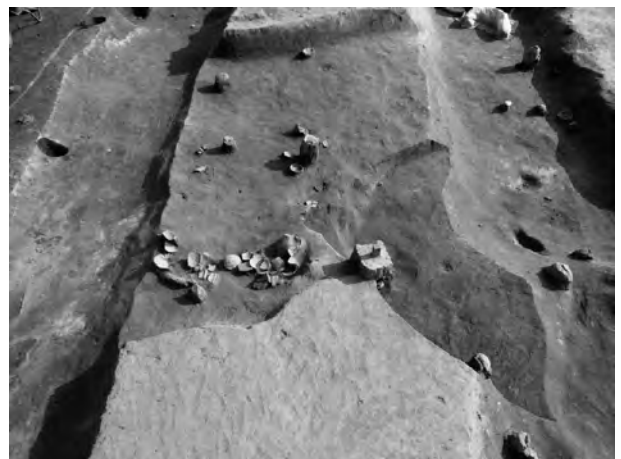
馬墓坑



馬頭骨



遺物出土状況



住居址検出状況

1. 所在地 甲府市古府中町地内
2. 調査主体 甲府市教育委員会
3. 調査期間 平成18年10月3日
～平成19年3月30日
4. 調査面積 3地点 合計665㎡
5. 調査原因 史跡整備
6. 調査担当者 佐々木 満
7. 調査の概要

武田氏館跡とは...

武田氏館跡は、永正16年(1519)に武田信虎が築いた館です。天正9年(1581)に武田勝頼が韮崎の新府城に移ると、武田氏館は使われなくなりませんが、翌年武田氏が滅亡すると、その後甲斐を統治した織田氏・徳川氏・豊臣氏の家臣団は、再び武田氏館を本拠として使用し、最終的に甲府城が築城されるまでの間、甲斐の拠点として再整備を行なったようです。大手口の発掘調査によって館の正面玄関と東側一帯の様子が少しずつ明らかになりました。

字三角・字高塚の調査

字三角とは、武田氏館の東に位置する躑躅ヶ崎の尾根筋と戦国期にさかのぼる古道「鍛冶小路」に挟まれた三角形の地形をした場所で、文字資料や古絵図にも登場しない謎に包まれた土地でした。調査前は不規則な細長い水田が棚田状に連なっておりましたが、今回史跡整備に伴い全体を縦横に2m幅で調査しました。

調査では水田開発で地形が変化している場所もありましたが、中には戦国時代の宅地造成の痕跡が確認されることもあり、現在残る区画がある程度戦国時代までさかのぼることが確認されました。

具体的に調査箇所をみて行くと、中央の調査区では1枚の水田跡から2区画分の宅地が確認されています。それぞれの宅地は細長い短冊状の形をしていたと考えられますが、1本の溝を境にして大きな変化がありました。溝から北側の区画は地山の礫が露出し、出土品もない状況でしたが、南側の区画からは建物に関連する縁石と水路とともに多数の出土品が確認され、保存状態も良好でした。この一帯は扇状地の傾斜地ですから水平な水田面を造成するために地形が高かった北側を南側に合わせて削平したこ

とを物語っています。

しかし、北側でも地面を深く掘り下げた穴だけは残ったと思われ、幅約70cm前後の連続した5つの円形土坑が確認されています。円形土坑の事例としては、桶や甕などの埋設が全国的に報告されていますが、残念ながらここでは裏付けとなる甕などは出土しませんでした。ですが、円形土坑は一度に埋め戻されていたことから、甕などの埋設物を抜き取った跡とも考えられます。

別の屋敷区画からは溶けた金属片や金属が付着した土器が多数出土しました。字高塚の調査でも屋敷跡と考えられる遺構群が確認されましたが、字三角同様溶けた金属が付着した土器が多数出土しました。金属加工に係る出土品が広範囲にわたりまとまって出土していることから、一帯には金属加工に携わった職人が居住していたと考えられます。

字三角からは、路面に小石を敷き詰め縁石で区切られた幅約1.8mの戦国時代の道路も確認されています。南北方向の道路と東西方向の道路が確認されていますが、未調査ながら字三角の地形の中には細長い水田跡や区画が存在していることから、そうした場所も道路の名残と考えられます。

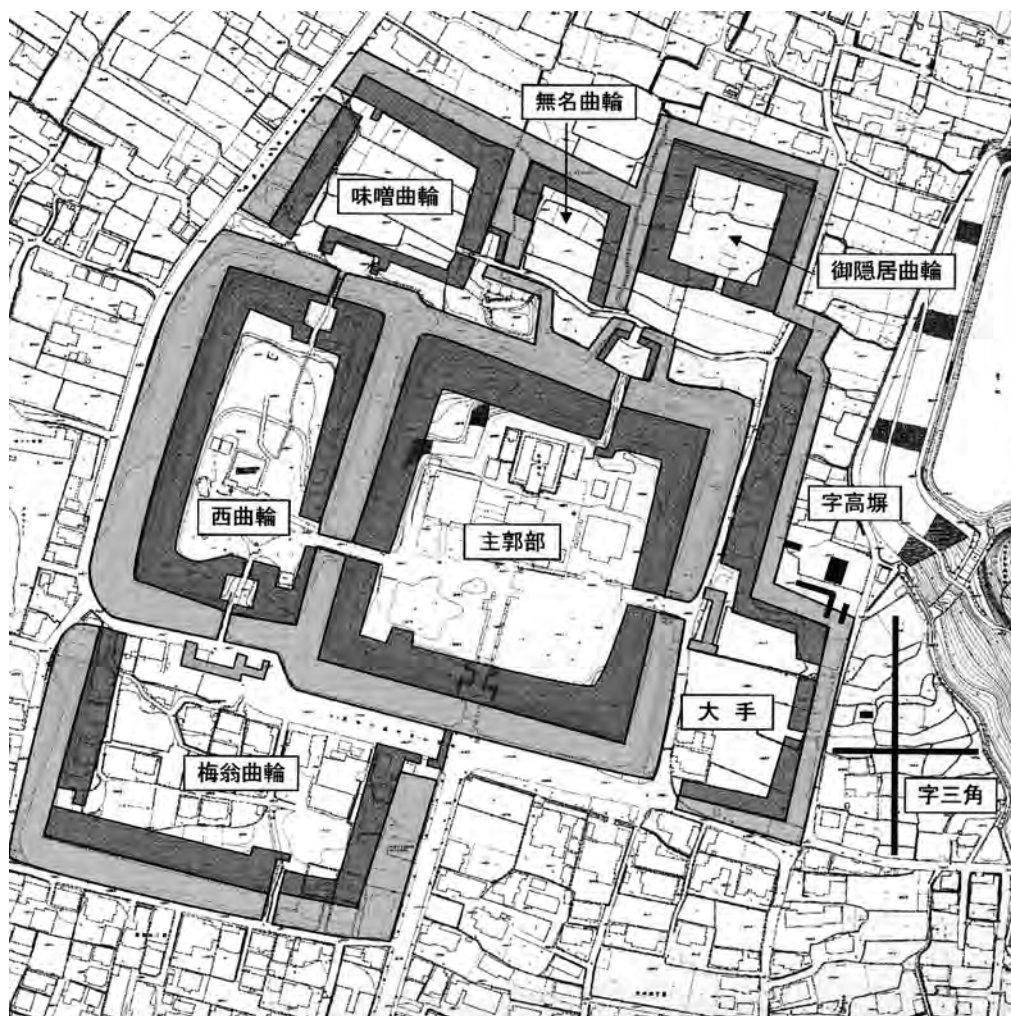
調査成果からみた字三角の地割りは、鍛冶小路を含む南北を基軸とした道路に面して小規模な屋敷地が連続すると考えられます。こうした屋敷地のあり方は、上級武士階級が居住するには少し狭く、むしろ越前朝倉氏の一乗谷に見られる城下町の様相に近いと考えられます。金属加工職人が居住したとされる鍛冶小路の地名が南側に残ることから考えると、字三角一帯まで職人集団が居住した城下町だった可能性が高いと思われます。

大手(館跡の正面玄関)の調査

平成17年度末に確認された三日月堀について追加調査をしました。三日月堀は、本来内側に土塁を伴い丸馬出と呼ばれる城郭の出入口を守る施設として機能しますが、武田氏館跡大手では、武田氏滅亡後に築かれた石塁などによって破壊され、堀のみが検出されています。規模は推定で全長30m、堀幅は4m、深さは2.5mですが、幅や深さについては、当時はもう少し大きかったと思われます。

三日月堀を伴う丸馬出は県外に多く分布していますが、山梨県内では新府城跡のみで確認されました。そのような理由から丸馬出は主に侵攻先で考案され、用いられたと考えられてきましたが、武田

氏の本拠地である館の正面玄関で三日月堀が確認されたことは、今後各地に残された三日月堀の時代設定や評価に大きな影響を及ぼすと思われます。



武田氏館跡 全体図



大手三日月堀(画面奥が武田氏館跡主郭東側の出入口)

1. 所在地 山梨市三ヶ所 763番地外
2. 調査主体 山梨市教育委員会
3. 調査期間 平成 16年 12月 14日 ~ 調査中
4. 調査面積 1,300㎡
5. 調査原因 史跡整備のため
6. 調査担当者 三澤 達也
7. 調査の概要

連方屋敷とは...

連方屋敷は、甲府盆地北東の笛吹川扇状地扇央部で、笛吹川と重川との中間に位置します。

中世地方豪族の屋敷跡として多く見られる、四方に土塁と堀を持った方形居館で、東西 117~ 130m (土塁外 - 外)、南北 120mの規模を持ちます。南と北の両土塁の軸線は平行しており、その両辺の垂直線を主軸方向とすると、西側の土塁は主軸に対して5度、東側土塁は 13.5度それぞれ西に傾いています。また主軸そのものは真北から東へ22度傾いています。土塁は北側と西側はよく残っているものの、南側の大部分と北東部分で大きく欠いています。

連方屋敷については、築造者についての伝承はほとんどなく、呼称の由来も定かではありません。『甲斐国志』は、編さん当時すでに古屋氏3名が居住しており、『甲陽軍艦』にみえる「蔵前衆ノ頭四人」の内2人が古屋氏であること、同衆に古屋氏が多いこと、「天正壬午武田諸土起請文」に古屋氏が多くみえ、その多くが周辺に居住していることから、蔵前衆頭古屋氏一党との関連を推定していますが、「凡テ明抛ナキコトハ關イテ記セズ」としています。上野晴朗氏はさらに、中央南に門口があり、その南に小路が直線に200mほど伸びて、その両側に小規模ながら街割が見られる点は、防御に重点をおいた館としては考えにくいとし、「蔵前の庁所」と推定しています。また上野氏は、この地域の「後屋敷」地名は、蔵前の統括者の屋敷に由来すると推定しています。ただし、当初は庁所として築造されたか不明であるとし、安田義定の九世安田孫左右衛門尉光泰が連峯入道といって足利尊氏に仕え、この屋敷に居住したため連峯屋敷と呼ばれたとの記録が八日市場名主文書にあるとしています。

発掘調査の成果

平成6年3月には、住宅建替えに伴う屋敷南東隅の発掘調査が行われ、集石遺構に伴って常滑甕と内耳土器が出土しています。常滑甕は口縁形状から13世紀末~14世紀初頭の生産、内耳土器は15世紀代に関東で生産・使用されたものと類似しています。

平成15年に個人から屋敷内の土地9,138㎡を山梨市が寄附採納し、史跡として整備すべくその基礎資料を得ることを目的に平成16年12月から段階的に調査を進めています。これまで、53箇所、620トレンチまたは発掘区を設定し、約1,300㎡を調査しています。

遺構については、屋敷のほぼ中央(T36・T50)に礎盤石を伴う少なくとも2間半の長さを持つ南北に長い掘立柱建物が、中央やや南西より(T10・T11)に3間の長さを持つ東西に長い礎石建物が検出されました。また、掘立柱建物の西側に隣接して南北に2つの礎石が検出されました(T51)。柱間は、掘立柱建物の礎盤石の間隔が真々で2m、礎石建物は2棟とも真々で2.4~2.5mです。

特筆すべきは、中央の礎石建物と同じ遺構面から13世紀前半から中頃に生産された象嵌文様の高麗青磁梅瓶の一部と13世紀中頃に中国竜泉窯で生産された青磁蓮弁文碗の一部が出土していることです。これら貿易陶磁は富や権威を象徴する威信財であることから、この建物が屋敷の中心的建物であった可能性が高いと考えられます。またかわらけも共伴し、完形のものも含めて比較的集中して検出されています。かわらけの集中は2箇所で見られ、いずれも礎石建物の位置と一致しています。かわらけは径11cm~12cmのものが多く、手づくね成形されたものはなく、ほぼ全てがロクロ成形し回転系切り痕を残しています。

在地系かわらけの編年については今後の課題であるが、口径や、薄手でやや内湾気味に立ち上がる口縁形状などから14世紀中頃から15世紀前半のものが主体であると考えられます。

中央の礎石建物の主軸方向は他の2棟と一致しておらず、その点は時期差を想定させるものの、屋敷全体において遺構密度は希薄で、建物跡の検出も中

央付近に限定されており、長期にわたって継続使用されたとは考えにくい状況です。

16世紀代の遺物はほとんど出土しておらず、中央やや南より(T5・T6・T7)からは近世以降の陶磁器類が出土しています。

遺構が検出されたトレンチについては拡張して規模・形状の把握を試みているが、土層観察ベルトを広く設定していること、耕作による攪乱が深いことから、成果は限定的なものに留まっています。遺構毎の詳細な調査は今後継続して行っていく予定です。

以上の状況から、連方屋敷は14世紀以前に築造され、15世紀の後半頃から16世紀代にはほとんど使用されずに、近世以降再び使用されているということが想定できます。

戦国期武田氏の蔵前の庁所としての使用についての痕跡は、ここまでの調査では検出されていないが、正徳検地絵図の写しには屋敷の北東部に「蔵屋敷」

の記載があり、この部分が限定的に使用されていた可能性もあります。

1333年の創建で1415年に仏殿が建立された清白寺や、中世に遡る定期市の原八日市場、新町の町並みなど周辺遺構との関連、威信財の質、条里や街割り、立地の特性などについては先学の研究を基に整理していきたいと考えています。

今後は整備活用委員会の検討を経て、調査・整備方針の決定が行われることとなります。

引用・参考文献

上野晴朗『甲斐武田氏』新人物往来社 1972年

上野晴朗『武田信玄 城と兵法』新人物往来社 1983年

数野雅彦『山梨市史資料編 第1章考古 第7節中近世の遺跡 7 連方屋敷』山梨市史編さん委員会 2005年

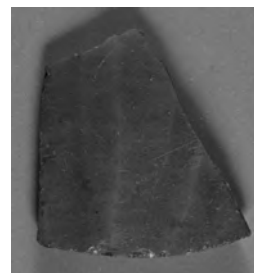
室伏 徹『史跡勝沼氏館跡 - 平成8～17年度外郭域G地区発掘調査概報 - 』甲州市教育委員会 2006年



礎石検出状況



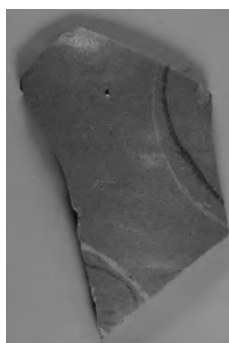
かわらけ出土状況



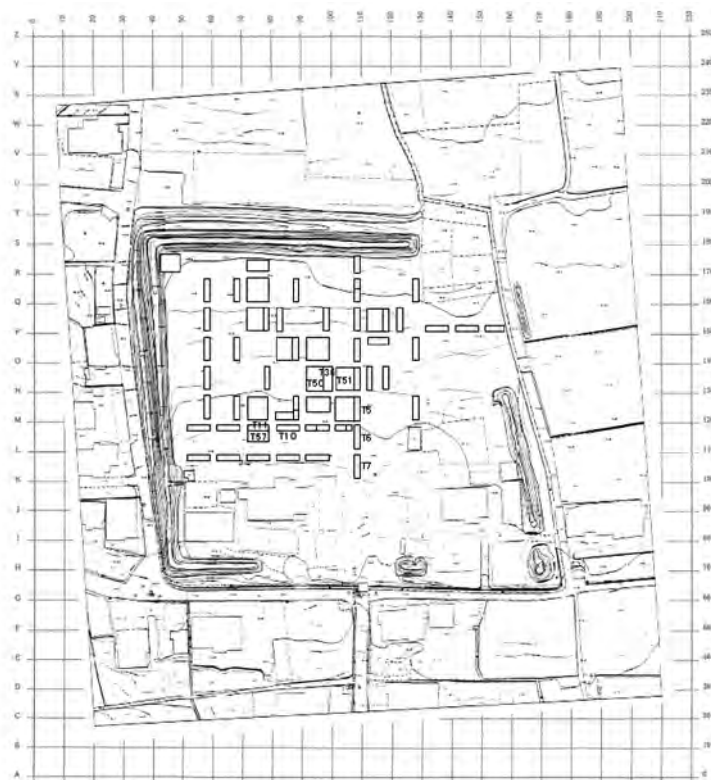
青磁連弁文碗の一部



礎盤石検出状況



高麗青磁梅瓶の一部



連方屋敷全体図

かつやまじょうあと ながつもりやがたあと 勝山城跡・中津森館跡

都留市教育委員会 森屋 雅幸

1. 所在地 都留市川棚字城山(勝山城跡)
都留市金井地内(中津森館跡)
2. 調査主体 都留市教育委員会
3. 調査期間 平成18年11月21日～
平成19年12月(予定)勝山城跡)
平成18年9月26日～10月10日
(中津森館跡)
4. 調査面積 約150㎡(勝山城跡)
約20㎡(中津森館跡)
5. 調査原因 勝山城跡学術調査事業に伴う発掘調査(勝山城跡)
保存目的による発掘調査
(中津森館跡)

6. 調査担当者 森屋 雅幸

7. 調査の概要

小山田氏と勝山城・中津森館

中世の時代、郡内地域を統治していた小山田氏は、しばし甲斐守護武田氏に対抗し、戦火を交えました。永正7(1510)年には武田氏と和睦し、以降は武田陣営として各地を転戦します。その後、天正10(1582)年に武田氏が滅亡するまで、郡内地域の経営に携わりました。この小山田氏の館こそが「中津森館」です。「勝山城」は都留市の川棚に所在する山城で、文禄3(1594)年、武田氏が滅亡した後に浅野氏重によって築城されたと伝えられていますが、小山田氏の時代にすでに要城として築かれていたとする見方もあります。勝山城と中津森館はどのような関係であったかは明らかではありませんが、地理的に近接しており互いに目視できる距離にあります。

勝山城跡

上で述べたとおり、勝山城は謎の多い城です。これらを明らかにする目的で平成17年度より5か年計画で勝山城および周辺関連遺跡の学術調査を実施することになりました。この中で発掘調査は平成18年度から行われています。

発掘調査では現在までに、小山田氏の時代まで遡る可能性のある遺物がごく僅かに確認されていますが、小山田氏との関係を断定的に示す遺物・遺構はまだ確認されていません。他の調査成果では、昨年度の調査で新たに確認された絵図に描かれた石垣が

手がかりになり、新しい見解が生まれました。一般的なお城では石垣は普通人目のつく所に築くのですが、この絵図の石垣は人目につかない城の裏手にあたる北西側に描かれています。また、現在の勝山城は南東を正面にしていて、正面を桂川が流れていますが、一般的にお城は、川を城の背にするようにしたようです。このことから考えると、ある時期に勝山城の正面は、現在とは逆の北西を向いていた可能性が考えられます。この方角には中津森館があり、ここを意識して造られた可能性があります。また、以上のことから、小山田氏の時代に築城された可能性も十分考えられます。

中津森館跡

小山田氏は現在の都留市金井に館を構えていたと伝えられており、地元には「デイ堀」「的場」といった館に関するような呼び名が残されています。また周辺の田畑では中世の陶磁器片を表採することができます。

文献資料によれば、『勝山記』・『妙法寺記』では「...大永7(1527)年7月、中津森の殿様百坪に御家作りたまふ...」とあり、この年に館を建てたことが分かります。その後、「...享禄3(1530)年3月、中津森の御所焼る...天文元(1532)年、谷村へ御越候而新屋敷を御立候...」とあり、館が焼けた後、谷村へ屋敷を建てて移ったとされています。『甲斐国志』には「...用津院の東にあり、里人は今も御屋敷と呼ぶ、外郭溝涯処々に列し存したるを土居堀とせり...」とあり、館は用津院の東側にあつて、館がなくなった後も人々は「御屋敷」と呼んでいたようです。このようにこの地に館があったことは窺えるのですが、具体的な場所の特定はできないため、発掘調査や地中レーダー探査・航空写真・地形測量図や古地図など様々な方法によって中津森館に迫ろうと調査を進めています。ちなみにこの調査も勝山城跡の学術調査の中の一環として行われています。

平成18年度に地権者のご厚意により館跡として有力とされていた箇所を試掘調査したところ中津森館の時代である中世の遺物が確認されましたが、主となるのはこれをはるかに遡る平安時代の住居跡や遺物でした。その後、調査区周辺で行なった地中レー

ダー探査の結果、今でも現地に残るデイ堀と呼ばれる深い落ち込みの続きが、地中に残されている可能性が出てきました。これは館の周囲をめぐる堀であった可能性が高いと思われます。今後はこの堀の範

囲を確認し、館の位置を割り出していきたいと考えています。

勝山城・中津森館は過去に本格的な調査は行われてきませんでした。本調査の成果が今後、都留市ひいては山梨県の中世を探る上で重要な鍵を握ると思われま



勝山城跡中津森館跡推定地



帯郭石積み：勝山城跡



お茶壺蔵下の平場で見つけた堀：勝山城跡



中津森館跡推定地遠景



今も残る「デイ堀」：中津森館跡



中津森館跡推定地の発掘調査風景



レーザー探査による「デイ堀」の調査：中津森館跡

発掘調査最新情報

遺跡名 遺跡の概要	所在地 問い合わせ先	遺跡の時代	調査期間	調査担当者	調査機関	調査面積
--------------	---------------	-------	------	-------	------	------

甲府市

甲府城跡(清水曲輪地点) 甲府市北口二丁目地内近世江戸時代 平成19年7月4日～(調査中) 宮澤公雄(財)山梨文化財研究所 約440㎡ 甲府駅周辺整備事業に伴う、甲府駅北口ロータリー地内に所在する甲府城の発掘調査。調査地点は城内北西の清水曲輪に当たるが、近代化による改変が著しい。調査地点は、石垣内側の土手部分に当たり、曲輪内の遺構の確認は困難であるが、井戸、土坑などが発見されている。山之手御門より西に延びる石垣や、曲輪北西に建つ乾櫓に伴う石垣などが確認されており、城石垣の位置特定が出来たとともに、堀埋め土中より明治後半以降の遺物が多数出土しており、明治末から大正期に大規模に廃棄されたことが改めて確認された。(財)山梨文化財研究所 055-263-6441

北巨摩地域

清水遺跡 北杜市大泉町谷戸字蟹林 平安時代 平成19年8月20日～9月4日 渡辺泰彦 北杜市教育委員会 100㎡ 平安時代の竪穴住居1軒を検出。緑釉陶器破片が出土。北杜市教育委員会 0551-42-1373

坂上遺跡 北杜市高根町下黒沢字坂上 縄文時代・平安時代 平成19年4月2日～4月24日 佐野隆 北杜市教育委員会 300㎡ 縄文時代前期初頭の遺物集中地点・平安時代の竪穴住居2軒。北杜市教育委員会 0551-42-1373

宮尾根C遺跡 北杜市高根町上黒沢字宮尾根 縄文時代・古墳時代 平成19年4月25日～10月12日(予定) 佐野隆 北杜市教育委員会 3,500㎡ 縄文時代中期の竪穴住居15軒程度、古墳時代の竪穴住居20軒程度。縄文時代中期中葉から末葉の住居跡等からなる径60mほどの環状集落で、中央に土坑群が検出されている。拳大程度の黒曜石原石、琥珀などが出土。北杜市教育委員会 0551-42-1373

西ノ原B遺跡 北杜市高根町村山西割字西原 縄文時代・古墳時代 平成19年6月25日～7月20日 佐野隆 北杜市教育委員会 600㎡ 縄文時代中期の竪穴住居3軒、古墳時代の竪穴住居1軒、土坑を検出。平成20年度にも調査予定。北杜市教育委員 0551-42-1373

大久保遺跡 北杜市白州町白須字大久保 縄文時代 平成19年7月2日～8月29日 村松佳幸 北

杜市教育委員会 1,500㎡ 縄文時代中期の竪穴住居8軒を検出。小規模な環状集落と推測される。北杜市教育委員会 0551-42-1373

頭無A遺跡 北杜市長坂町夏秋字頭無 平安時代 平成19年9月3日～9月20日 村松佳幸 北杜市教育委員会 1,000㎡ 平安時代の竪穴住居4軒を検出。北杜市教育委員会 0551-42-1373

若神子宿遺跡 北杜市須玉町若神子字五反田 中世 平成19年8月27日～9月21日 佐野隆 北杜市教育委員会 500㎡ 14世紀初頭に創建伝承をもつ時宗「長泉寺」に隣接した地点の調査で、15・16世紀の配石墓、配石墓群より古い溝跡1条を検出。ほかに14世紀台の陶器類が出土。北杜市教育委員会 0551-42-1373

西久保遺跡 北杜市高根町蔵原字西久保 縄文時代 平成19年4月20日～5月11日 村松佳幸 北杜市教育委員会 93㎡ 縄文時代中期の竪穴住居2軒、土坑1基、時期不明の溝状遺構2条を検出。北杜市教育委員会 0551-42-1373

下横屋遺跡 韮崎市藤井町北下条字下横屋 弥生時代後期～古墳時代前期 平成19年5月 関間俊明 韮崎市教育委員会 300㎡ 弥生時代後期～古墳時代前期の溝及び土坑。土坑内からは2点の壺・管玉・琥珀状玉が検出された。韮崎市教育委員会 0551-22-1111(代)

女夫石遺跡 韮崎市穂坂町宮久保字女夫石 縄文時代中期・弥生時代後期・平安時代 平成19年6～7月 関間俊明 韮崎市教育委員会 100㎡ 縄文時代中期の竪穴住居跡等15軒。曾利式前半期の土器片にサンドイッチされた状態で黒曜石剥片40点程度の埋納遺構などを検出した。韮崎市教育委員会 0551-22-1111(代)

山影遺跡 韮崎市藤井町南下條字山影 平安時代 平成19年5月 山下孝司 韮崎市教育委員会 19㎡ 平安時代の竪穴住居跡の覆土もしくは包含層となると考えられるが、面積が狭小のため遺構であるかどうかは未確認である。韮崎市教育委員会 0551-22-1111(代)

羽根前遺跡 韮崎市大草町上條東割字羽根前 古墳時代 平成 19年 山下孝司 韮崎市教育委員会 5 m² 古墳時代前期の竪穴住居跡 2 軒を検出。規模については調査面積狭小のため不詳。 韮崎市教育委員会 0551-22-111(代)

史跡新府城跡 韮崎市中田町中条字城山 戦国時代 平成 19年 7月～ 山下孝司 韮崎市教育委員会 300m² 新府城跡の保存整備事業に関わる発掘調査。搦手周辺。 韮崎市教育委員会 0551-22-111(代)

藤井下河原堤防遺跡 韮崎市藤井町南下条地内 近代 平成 19年 3月 26日～ 6月 1日 畑 大介 (財)山梨文化財研究所 約 360m² 近代に造られた塩川の右岸堤防を調査。川表側には木工沈床が付設されていた。堤体内からは砂礫で覆われた田畑の区画が検出され、洪水後田畑を復旧しないまま、その上に土砂を積み上げて堤防が築かれていた。(財)山梨文化財研究所 055-263-6441

滝坂遺跡 韮崎市水神二丁目青坂地内の 34 縄文・古代・近世 平成 19年 4月 15日～ 11月 入江俊行 (財)山梨文化財研究所 約 9,300m² 七里ヶ岩と呼ばれる舌状台地上に位置する。検出された遺構は、掘立柱建物 1 棟、溝跡 1 条、溝状遺構 1 条、土坑 8 基、ピット 150 基(200年 10月現在) 溝状遺構は縄文中期頃に埋没した埋没谷の可能性もある。溝跡はおおむね近世以降の所産と考えられる。(財)山梨文化財研究所 055-263-6441

中巨摩地域

野牛島・西ノ久保(やごしま・にしのくぼ)遺跡 区 南アルプス市野牛島地内 奈良時代～中世 平成 19年 5月 14日～ 9月 21日 斎藤秀樹 南アルプス市教育委員会 1,580m² 御勅使川扇状地扇央部から扇端部に位置する。他の区と同様に奈良・平安時代の住居跡 4 軒が発見されている。調査区東には石橋北屋敷遺跡が隣接し、中世の道路跡や道路跡と直行あるいは平行する区画溝、土坑墓、地下式坑等が発見された。土坑墓からは副葬品として六道銭、棒状鉄製品等が出土している。地元の伝承では、調査地周辺が「お寺の田」や「寺西」と呼ばれており、発見された土坑墓、地下式坑との関連が注目される。 南アルプス市教育委員会 055-282-7269

野牛島・西ノ久保(やごしま・にしのくぼ)遺跡 区 南アルプス市野牛島地内 縄文時代晩期、奈良・平安時代 平成 19年 4月 24日～ 9月 28日 榎原功一、河西 学 (財)山梨文化財研究所 区 3,876m² 区 3,310m² 区は東西に伸びる小谷部分にあたる。谷底からはゆがんだり数枚の破片が融着した須恵器甕の破片が出土した。近くに須恵器の窯跡があったことが推定

される貴重な発見となった。また、台地面からは炭焼窯と推測される内部に大量の炭化物を含んだ土坑が 3 基検出されている。区は西に大塚遺跡、南に野牛島・大塚遺跡が隣接し、ふたつの遺跡から続く古代の集落跡が発見された。竪穴式住居跡の中には柱穴をもち、さらに竪穴四隅に礎石がしつらえられた柱穴を持つ住居も検出されている。(財)山梨文化財研究所 055-263-6441

間々下(まました)遺跡 甲斐市志田地内 平安時代末～室町時代 平成 19年 6月 18日～ 大島正之・須長愛子・高野高潔 甲斐市教育委員会 11,732m² 間々下遺跡は、北側に 20号線、甲斐市役所双葉庁舎、東側には双田橋に続く県道若草・双葉線という場所にあり、坊沢川・東川・六反川・釜無川に囲まれた扇状地の突端部にある。現在までの調査で、住居跡 3 軒・土坑墓 7 基・土坑 3 基・溝跡 5 条などが確認されているが、そのうち第 5 号土坑墓からは、約一頭分の馬の歯がきれいに並んで発見されている。遺跡からは脚高高台坪・柱状高台坪や陶磁器・銅銭や鉄製品などが多く出土している。 甲斐市教育委員会 0551-20-3658

南巨摩地域

鯉沢河岸跡 C(横町地区) 南巨摩郡鯉沢町横町地内 近世～近代 平成 19年 5月 14日～ 8月 3日 保坂和博・堀込紀行 山梨県埋蔵文化財センター 約 170m² 本遺跡は、江戸時代に開かれた富士川舟運に伴う船着場として設けられた「河岸」で、平成 8 年度から調査が進められ、今年度は河岸跡の最北端の横町地区を実施した。その結果、江戸時代から昭和にかけての建物跡や石垣が検出され、土器・陶磁器・瓦のほか、金属製品(銭貨・生活用品)が出土した。特筆されるものに県内遺跡からの出土として甲府城跡に次いで 2 例目となる「一分判金(元禄)」があり、江戸から明治時代に経済・物流の面では甲府以上の繁栄を誇った当時の鯉沢河岸の隆盛の一端を語る貴重な資料である。 山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

青柳河岸跡 南巨摩郡増穂町青柳地内 江戸時代～明治時代 平成 19年 6月 1日～ 9月 27日 山本茂樹・猪股一弘 山梨県埋蔵文化財センター 2,250m² 青柳河岸跡は、増穂町青柳地内の富士川河川内で、市川三郷町と増穂町を結ぶ富士川大橋の下流に位置する。この遺跡では、石垣と堤防上の高まりと道が見つかった。特に道は、この堤防上の高まりの下で粘土と砂利混じりの土が広がり、東西方向に延びていたことが明らかとなった。道の最下層の面からは、江戸時代の磁器片が見つかった。なお、堤防上の高まりからは、陶磁器類や瓦片そして電線に使用した磚子(がいし)が見つかった。また、鯉沢河岸跡と同じような薬ビンなども見つかった。これらの物は、明治期でもかなり新しい物と判断される。 山梨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

東山梨地域

橋詰遺跡 山梨県笛吹市御坂町栗合 358- 1 ほか
縄文時代、奈良・平安時代 平成 19年 5月 7日～9月
3日 伊藤修二、溝内淳介 笛吹市教育委員会
約 1,116.5m² 本調査地は金川扇状地の扇中央部の天川
よりに位置する。北側に馬場川、南側に出黒川が流れて
おり、標高約 333mの西へ向かって下る緩やかな傾斜地に
立地する。本調査地の北西約 1 kmには二之宮・姥塚遺跡
が所在する。本調査地では、奈良・平安時代の竪穴住居
跡 20軒、竪穴状遺構 1棟、その他ピット・土坑が多数検
出されている。竪穴住居跡は 10世紀代に属するものが主
体である。10世紀前半代の竪穴住居跡からは見込み部に
陰刻花文の見られる緑釉陶器が出土した。本遺跡の集落
の盛衰については、周辺遺跡を含めた中で今後の検討す
ることが課題であろうか。 笛吹市教育委員会 055-265-
4852

秀森前(ひでもりまえ)遺跡 甲州市塩山上塩後 1100
- 1 ほか 縄文時代後期 平成 19年 8月 19日～平成
19年 9月 28日 室伏 徹 甲州市教育委員会 300
m² フルーツ山梨農業協同組合の本所建設にあたり、
外構工事中に土器が出土したことから、建物建設予定地
について発掘調査を実施した。地表から 40cmほど下が
った黒色粘土が遺物包含層で、多数の土器が出土した。す
べて破片であり復元できる個体はない。また、黒曜石、
水晶、チャートなど石器製作用石材も多く、鏝も 10点
以上出土しているが、低湿地であるため住居址のような遺
構は検出されていない。土坑状の遺構が数箇所検出され
ているが、用途は不明である。遺物の出土状況から、土
器捨て場のような性格の遺跡と考えられる。 甲州市教
育委員会 0553-32-1411

都留地域

玉川金山遺跡 山梨県都留市玉川字上ノ原 200- 1 ほか
縄文早期・奈良・平安・中世・近世 平成 19年
5月 14日～12月末(予定) 田口明子・網倉邦生・酒井

玄暁 山梨県埋蔵文化財センター 2,496m² 玉
川金山遺跡の調査は今年度で 4 年目である。これまでの
調査で縄文早期・奈良・平安・中世・近世の遺構が検出
されている。今年度の調査は 5 区 面・7 区・8 区・9 区・
10 区を対象として行っており、7・8 区の調査はすでに
終了している。7・8 区からは平安～近世の遺構、遺物
が検出された。現在は 5 区・9 区・10 区の調査を行って
いる。現在調査中の 5 区からはこれまでの調査と同様に
縄文早期の遺構面が検出されているが、特に黒曜石や珪
質頁岩が集中して出土している区画は石器製作跡の可能
性を指摘できる。 山梨県埋蔵文化財センター 055-266-
3016

上中丸(かみなかまる)遺跡 富士吉田市小明見 1369
ほか 縄文時代中期末葉(加曾利 E4 式段階)、縄文時代
晩期末葉(氷 式段階)、弥生時代前期後葉～中期前葉(水
神平式段階)、平安時代(10世紀) 平成 19年 8月 1日～
12月末日 篠原 武・布施光敏 富士吉田市教育委
員会 約 1,000m² 丹沢山系の山裾にあたり、大沢
川と小佐野川という二つの川が合流する地点の西岸に広
がる。遺跡の西側は、古墳時代に富士山から流下した檜
丸尾第 1 溶岩に覆われている。各時代の概要は以下のと
おり。縄文時代中期末葉 - 10月中旬以降調査予定。縄文
時代晩期末葉 - 同一個体のまとまりを 6 ブロック検出。
そのブロックの 1 つで、ピットの集中を確認。柱穴の可
能性あり。現在精査中。弥生時代前期後葉～中期前葉 -
竪穴建物跡 1 基を検出。現在、精査中。平安時代(10世紀)
- 竪穴建物跡 2 基を検出。現在、精査中。 富士吉田市
歴史民俗博物館 0555-24-2411

鷹の巣遺跡 都留市つる四丁目・五丁目ほか 奈
良時代～平安時代・中世・近世 平成 19年 9月 10～11月
30日 平野 修 (財)山梨文化財研究所 約 1,500
m² 奈良時代から平安時代を主体とする居住域(集落)
と生産域(ハタケ等)を含む遺跡。(財)山梨文化財研究
所 055-263-6441

2007年度上半期

遺跡調査発表会要旨

発行日 2007年 10月 27日
発行所 山梨県埋蔵文化財センター 電話 055- 266- 3016
〒 400- 1508 山梨県甲府市下曾根町 923
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>
山梨県考古学協会 電話 055- 263- 6441
〒 406- 0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566
帝京大学山梨文化財研究所内
<http://spaces.msn.com/members/sankoukyo-yamanashi/>
印刷所 有限会社 タクト 電話 0551- 22- 9633